

上越交響楽団

第80回定期演奏会

指揮 長谷川正規

コンサートマスター 三溝 健一

80th

Program

ウェーバー

歌劇「オイリアンテ」序曲

モーツァルト

交響曲第31番「パリ」

チャイコフスキー

交響曲第1番「冬の日の幻想」



2018年 3月18日(日) 14:00開演 (13:30開場) 上越文化会館大ホール

主催／上越交響楽団

後援／上越市教育委員会、妙高市教育委員会

※未就学児をお連れのお客様は、他のお客様のご迷惑にならないようご配慮願います

本日は上越交響楽団の第 80 回定期演奏会にお越し下さりましてまことにありがとうございます。ごさいます。

創立以来 46 年で 80 回の定期演奏会です。年 1 回の定期演奏会から 2 回になり、定期演奏会以外の企画もあって、随分沢山の作曲家と名曲を演奏して来ました。その間に親しみやすい曲や、ちょっと難しいぞという曲や新作にも挑戦して来ました。そして、皆様から沢山の拍手をいただいたのは大きな力になりました。まだこれからも感動を呼ぶような多くの曲を演奏してまいりますので、どうぞ文化会館やオーレンプラザにお越し下さい。

本日の演奏会は数々の名曲を生んだチャイコフスキーのちょっと知られてはいませんが、ロシアの民謡らしき曲が巧みに取り込まれている交響曲第 1 番です。他に序曲の多い作曲家ウェーバー、神がかり的天才モーツァルトの交響曲です。大向こうを張ったような演奏会ではありませんが、じっくりとお楽しみ下さい。

指揮者

Masanori Hasegawa

長谷川正規

東京藝術大学音楽学部器楽科（チューバ専攻）を卒業。同大学大学院音楽研究科修士課程修了。学部在学中に安宅賞を受賞。ソリストとして、松尾葉子指揮藝大フィルハーモニア、故岩城宏之指揮オーケストラアンサンブル・金沢等と共演。チューバ奏者として管弦楽・吹奏楽・室内楽の領域で活動するほか、指揮の活動も盛んに行っており、上越交響楽団、上越市民吹奏楽団、新潟市北区フィルハーモニー管弦楽団の定期公演をはじめ、ミュージカル「春のホテル」、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」「愛の妙薬」「売られた花嫁」等で指揮者を務める。これまでにチューバを稲川榮一氏に師事。現在、上越教育大学大学院学校教育研究科准教授。



コンサートマスター

Ken-ichi Samizo

三溝健一

松本市出身。4歳よりヴァイオリンを始め、片岡世界、正岡紘子、山岡耕筈、天満敦子の各氏にヴァイオリンを、東京音楽大学にて井上將興氏にヴァイオリン及び室内楽を師事。肥沼きよ、竹内邦光、丸山嘉夫、松本紀久雄、汐澤安彦の各氏にピアノ・ソルフェージュ・音楽学・指揮法を師事。大学在学中よりソロ・室内楽・オーケストラ・オペラ等、幅広く演奏活動を行う。殊に「ENSEMBLE“藝弦”(弦楽合奏)」「室内楽“EAU”(ピアノアンサンブル)」を中心に研鑽を積み現在は「音泉室内合奏団」を主軸に活動を展開、編曲も多数手掛けている。また、関東信越各地の市民・学生オーケストラと室内楽にて演奏指導と活動の発展に尽力、また初心者から専門課程の学生及び演奏家の個人レッスンなど広く後進の育成にもあたる。足立シティオーケストラ・松本交響楽団・上越交響楽団・柏崎フィルハーモニー管弦楽団、他ノ常任・客演コンサートマスター、副指揮者(足立・松本)。音泉室内合奏団/ソロ・コンサートマスター、音楽監督。池袋音楽学院 講師。Gruppo Violini 主任講師。Musica Rospo 主幹。



プログラム&曲目解説

■ウェーバー／歌劇「オイリアンテ」序曲

ウェーバーが代表作「魔弾の射手」によって大成功を収めたことにより 1821 年にウィーンのケルトナートーア劇場から新作を依頼されて作曲したのが「オイリアンテ」です。脚本はドイツの女流作家シェジーによるもので、美姫オイリアンテをめぐってアドラーとリジアートの二人の騎士が争う物語ですが、あまりに平凡な内容であったため人気が上がり、殆ど上演される機会がなくなりまし

た。しかし、序曲が秀逸であることから、現在ではしばしば単独で演奏会に取り上げられます。曲は騎士アドラーがオイリアンテに忠誠を誓う場面の颯爽とした主題に始まり、愛情を示す抒情的な主題や悪巧みするリジアートを憎悪する亡霊の主題が順に現れ、終結部では正義の騎士アドラーとオイリアンテとの恋愛成就が表現されます。

■モーツァルト／交響曲第31番 二長調 K. 297(300a)「パリ」

1778 年モーツァルトが 22 歳の時、パリ滞在中の作品です。オーストリア・ザルツブルク大司教に仕える宮廷音楽家の職を辞し、より良い就職先を求めてドイツのミュンヘンやマンハイムから芸術の都パリへ移住した時期です。しかしパリでは受け入れ先から冷遇され、あまり環境は良くなかったようです。それでも何とかパリの人々に売り込もうと、当地を代表する演奏会団体コンセル・スピリチュエルからの依頼を受けて交響曲を作曲しました。それまでには無い破格にスケール感豊かな曲でした。当時のパリのオーケストラはヨーロッパ最大規模を誇り、管楽器が揃っていた上に弦楽器の人数も多く、モーツァルトの新たな創作意欲が沸き上がったと考えられます。18 世紀半ばに広まった新興の楽器クラリネットを含む 2 管編成で書かれ、ユニゾンによる華やかな開始部、クレッシェンドの多用や大胆な転調などが往時のパリ楽界の趣味を鮮やかに映し出しています。このような背景から「パリ」の愛称で呼ばれるようになりました。

第1楽章 アレグロ・アッサイ、二長調、4/4 拍子、ソナタ形式

堂々としたユニゾンの第1主題で始まります。ヴァイオリンが一気にオクターブを駆け上がった後、対照的に弱音で下降するメロディです。次にいろいろな動機が断片的に表れ第2主題が歯切れよく出てきます。展開部で第1主題提示の後、軽やかなメロディがカノンで出てきます。次第にクレッシェンドして再現部を経て最後はオペラの序曲風に華麗に結ばれます。

第2楽章 アンダンテ、ト長調、6/8 拍子、展開部のないソナタ形式

強弱記号が詳細に付けられた情緒豊かな第1主題で始まります。荘重なリズムの後、下降していくような優美な第2主題が出てきます。短調系の音形になった後に再現部になります。

第3楽章 アレグロ、二長調、2/2 拍子、ソナタ形式

第2ヴァイオリンの細かい伴奏の上に第1ヴァイオリンがシンコペーションの旋律を演奏して始まります。第2主題がフガート風に演奏され展開部でも第2主題が中心に扱われます。再現部では第1主題の後すぐに第2主題の後半に移り、そのままの勢いを保って華やかなコーダで結ばれます。

● 休憩 ●

■チャイコフスキー／交響曲第1番 ト短調 作品13 「冬の日の幻想」

チャイコフスキーは学生時代に法学を勉強し卒業後は法務省に勤務しましたが、音楽への情熱を抑えることができず、1862年に創設されたペテルブルク音楽院に入学し名教師アントン・ルビンシテインから音楽を学びました。優秀な成績で卒業したチャイコフスキーは 1866年に交響曲第1番を完成させましたが、恩師ルビンシテインからは評価されませんでした。チャイコフスキーは恩師の助言に従って一部に修正を加えたものの好評は得られませんでした。けれども、アントン・ルビンシテインの弟でモスクワ音楽院の院長であるニコライ・ルビンシテインから高評価を受け、後押しされたことで初演に踏み切ったところ、大成功を収めた経緯があります。そのためこの交響曲第1番はニコライに献呈されることになりました。

曲はチャイコフスキーらしい旋律美にあふれ効果的なオーケストレーションに彩られています。ロシア民謡の旋律やワルツ風の音楽を用いたりして、初めての交響曲でありながら早くもチャイコフスキーの個性が至るところに表出しています。自身が付けた副題「冬の日の幻想」は自然の冬の描写を目指したものではなく、当時ロシアの芸術家の間で流行っていた「冬の旅」という主題に由来するものと考えられています。

第1楽章「冬の旅の幻想」 アレグロ・トランキロ、ト短調、2/4 拍子、ソナタ形式

冒頭でフルートとファゴットが凍てついたイメージ

を喚起する第1主題を提示します。クラリネットが柔らかな表情の第2主題を奏します。展開部では主に第1主題が扱われ、再現部に入る前にホルンが効果的に用いられて、結尾部は静かに閉じます。

第2楽章「憂鬱な土地、霧深き土地」 アダージョ・カンタービレ・マ・ノン・タント、変ホ長調、4/4 拍子、ロンド形式

哀愁を帯びた旋律がまずオーボエで、2回目にチェロ、3回目はホルンで切々と歌われてクライマックスを形成します。これが収束するとコーダとなり、ヴァイオリンの序奏主題が選ってきて締めくくられます。

第3楽章 アレグロ・スケルツァンド・ジョコーソ、ハ短調、3/8 拍子、スケルツォ

主部は弱音主体で幻想的な雰囲気が進みます。中間部でヴァイオリンとチェロによりワルツ風の歌が表れて木管とホルンが応じます。コーダでは中間部のワルツがハ短調で表れ、チェロとヴィオラが独奏でカデンツァ風に奏して歯切れよく終わります。

第4楽章 アンダンテ・ルグーブレ、ト短調、4/4 拍子

～アレグロ・マエストーソ、ト長調、2/2 拍子、ソナタ形式
ファゴットの動機に基づきヴァイオリンが奏でる序奏はカザン地方の民謡「咲けよ、小さな花」に基づいています。主部に入るとその旋律を長調で提示し主要主題としています。対位法が活用された箇所を経て大いなる熱狂へと至り、力強いコーダでは打楽器が連打されて壮麗に結ばれます。

■ 出演者

*は賛助出演ならびに団友

■コンサートマスター

三溝 健一

■第1ヴァイオリン

飯吉 麻衣子
加藤 由香里
斎藤 典子
橋本 士郎
岩田 貴守*
増井 健一*

上野 圭子
小菅 宏造
洲崎 匡
山田 知世
折原 裕子*

■第2ヴァイオリン

青木 由美子
泉 紀子
高松 理恵
藤原 満
石津 忠*

安藤 優
小林 優樹
田中 教生
山田 美幸
八國生 紗也乃*

■ヴィオラ

岩下 律子
清水 哉子
古海 法雲
渡辺 みほ
キム ギョンハン*

澤村 昂志
中村 逸郎
村松 きあら
大庫 るい*
宮入 徹*

■チェロ

池田 なつき
上野 敦子
金山 美樹
榎木 文子
村治 美代

稲井 進
金森 史子
佐藤 充
水澤 由紀

■コントラバス

伊藤 実沙樹
吉崎 須賀子
山崎 康正*

秋山 雅央
木口 聡*

■フルート

齊藤 孝久
丸山 恵理

福田 幸久

■オーボエ

羽賀 純子
皆川 正弘

橋本 直子
皆川 未央

■クラリネット

齊藤 直美
富田 洋加

鈴木 和久
渡辺 英雄

■ファゴット

鈴木 絢子
宮口 弘明

高松 編花

■ホルン

飯田 美由紀
笹川 修一
森 真人

伊豫岡 美沙
須田 孝義
綿貫 英紀

■トランペット

上原 舞
水澤 学

菅野 徳嗣

■トロンボーン

笠野 光雄
松田 彰英

西山 瑤

■チューバ

若井 一也*

■パーカッション

稲田 善智
小島 章子*

小浜 史頌

団長 古海 法雲
事務局長 茨木 真
インスペクター 佐藤 慎悟

■ 楽団について

1972年(昭和47年)に結成されました。当時の日本の高度経済成長に呼応するように、アマチュア音楽家の活動が全国的に活性化する流れのなか、上越においても市民オーケストラ結成の機運が高まり、地域の高校管弦楽団OBら有志が集って演奏会を開催して以来、年2回開催している定期演奏会や各方面からの依頼演奏会を通して皆様に親しまれてまいりました。

現在は指揮者に長谷川正規氏、コンサートマスターに三溝健一氏を迎えて充実した活動を展開しています。

本団では一緒に活動していただける団員を募集しております。募集パート等の詳細についてはお問合せ下さい。素敵で愉快な仲間達と素晴らしい音楽を創りましょう。団員一同、心より歓迎いたします。

■お問合せ先

Mail: mako2034@joetsu.ne.jp
Tel: 090-1606-1254 (事務局長: 茨木)
http://www5a.biglobe.ne.jp/~jsovnj/



■ 次回演奏会のご案内

第81回定期演奏会

日時: 2018年9月16日(日)14:00 開演
会場: 上越文化会館 大ホール

モーツァルト / 歌劇「後宮からの逃走」序曲
メンデルスゾーン / ヴァイオリン協奏曲
(ヴァイオリン: 牧田由起)
ブルックナー / 交響曲第4番「ロマンティック」



オーレン クリスマスフェスティバル